

令和元年度文書館資料叢書 16

『福井藩士履歴 8 新番格以下 1 イ〜リ』の発刊・配布について

1 刊行の目的

文書館資料叢書は、福井県の歴史解明において重要で、かつ一般利用者の閲覧要望が多い資料を活字化し解説等を加えて刊行してきた。これまで士分と呼ばれた上級〜中級藩士の家臣の人事履歴（藩士履歴 1〜6）、幕末期に新たに召しだされた藩士の子弟の人事履歴（藩士履歴 7 子弟輩）を刊行した。それらに引き続く形で今年度以降、下級家臣団約 500 家（明治以降のいわゆる卒身分に相当する藩士の家系）の人事履歴を刊行する。

2 おもな掲載人物

橋本 安治（小森 治郎吉）（はしもと やすじ（こもり じろきち）、1839-1884）

小森篤平の養子。文久 2（1862）年に浮下代として出仕。維新後、慶応 4（1868）年 3 月、三岡八郎（由利公正）とともに上京。同年 5 月、会計官判事筆生として明治政府に出仕。同時期に造幣権助、出納司大佑、出納司権正などを歴任。明治 9（1876）年、検査権頭。明治 10（1877）年、大蔵省権少書記官。明治 13（1880）年、精算局に異動。明治 14（1881）年、国際局詰、調査局勤務。正六位勲六等单光旭日章を授かる。娘婿は橋本正治（大正期に鹿児島県知事、山口県知事を勤めた人物）。

庭瀬 孝一郎（にわせ こういちろう、生没年不明）

庭瀬万斎の子。安政 7（1860）年に表御坊主として出仕。その後、御時計役、不寝役などを勤める。慶応 3（1867）年 5 月、鳴物方、同年 11 月に喇叭役に任じられる。維新後も引き続き、第二等楽手、楽隊世話役、楽手伍長など軍楽に関わる職務に従事している。明治 3（1870）年には、喇叭の修行を目的として鯖江藩に派遣されている。

富田 材輔（富田 厚積）（とみた ざいすけ（とみた あつみ）、1836-1907）

富田為次郎の子。江戸で儒学者安積良斎、安井息軒らに学び、文久 4（1864）年に学問所句読師として出仕。以後、慶応 4（1868）年明道館訓導役など藩校明道館に関わる職務に従事する。維新後の明治 5（1872）年、福井県下初の新聞「撮要新聞」を発行する。明治 12（1879）年、福井公立明新中学校長。字（あざな）は美卿。通称は材輔、厚積。

3 刊行計画

『福井藩士履歴 1〜6』（既刊）、『福井藩士履歴 7 子弟輩』（既刊）

『福井藩士履歴 8 新番格以下 1 イ〜リ』（今年度刊行）

『福井藩士履歴 9〜13 新番格以下 2〜6』（来年度以降刊行の予定）

4 配布方法等

令和 2 年 3 月 31 日（火）以降、希望者には文書館閲覧室において配布。
県内図書館、都道府県立図書館・文書館等へ配付。

5 判および発行部数

A4 判（本文 172 頁） 印刷部数 1000 部